



2020年度 年主題〈こころが満たされる〉

0・1・2歳児 10月主題 「たのしい」

月のねがい

- ◎保育者や友だちと一緒に祈り賛美する。
- ◎身体や心を動かして遊びを楽しむ。
- ◎のびのびと表現したことをまわりの人に受け止めてもらう。

3・4・5歳児 10月主題 「楽しむ」

月のねがい

- ◎神さま、イエス様に愛され、たくさんの恵みをいただいていることを感じる。
- ◎友だちとアイデアを出し合ったり、試行錯誤しながら一緒に遊びをつくりあげていくことを楽しむ。
- ◎身体を動かし、心を弾ませる経験をする。



中身は密に！運動会！

本年度は残念ながら縮小での運動会です。でも、子どもたちが今年度取り組んできたことをしっかりと見ていただこうと思います。オリンピックが開催されれば、オリンピックをテーマにする予定でしたが、今年のテーマは「海賊」！！7年前にも登場したテーマです。子どもたちは、1学期に、この海賊(名前は、minami)から謎の手紙が届き、宝物をとるアイテムや言葉探しゲーム、カード探し、宝探しを楽しみました。その楽しかったことを運動会で、表現することになりました。どうぞ、お楽しみに！

さて、予行練習はコンディションが悪く、体育館の中での活動になりました。年長児の女の子たちは競争ごとが大好きなので、かけっこもリレーもそれはそれは楽しみにしています。予行のかけっこ前も「先生！本気で走っていい？」と女の子たち。「体育館だから本気よりも少し軽く走ってね！」と伝えましたが、いざ本番になると目の色が変わり、スタートも猛ダッシュ！すると、カーブの所で4人中3人が転んでしまい、一瞬ヒヤッとしましたが、さすが年長さんです。すぐに起き上がり泣くこともなく、途中上靴が半分脱げて走った子も目に涙がたまりながらそれでも懸命走ってゴールしました。悔しかったと思いますが、頑張ったことを褒めてあげることでした。本番は、さらにギラギラしながら走ると思います。子どもたちの目の輝きもどうぞお見逃し無く！

年長児の女の子は、野外劇で海賊が狙う「宝石」の役です。宝石の姫が持つきれいな宝石が海賊に取られるかもしれない…ということで、毎日交代で家に持ち帰り宝石を守ってくれています。年中児さんは、マーチングのお稽古をしていますが、本番の旗はまだ使わず小さい旗を使っています。みんなの動きが揃ったら大きな旗を持つことにしています。本番で嬉しそうにしている様子を見て下さいね。0,1,2,3歳児さんは、何をやってもかわいいです。3歳児さんは、初めて4,5歳児さんのリレーに参加をします。ハブニングも楽しみの一つ。どうぞご期待！！

めいろうの運動会は先生たちの思いがたくさん詰まっています。短い時間ではありますが、見合わせていただいたおじいちゃん、おばあちゃんの方もたくさんの応援を宜しくお願い致します。

森山

今月の聖句 あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。

マタイ19:19

「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」これは、聖書の教えの中でもよく知られた大切な教えの一つです。けれども、このイエス・キリストの教えは何を言っているのでしょうか。

飛行機に乗りますと、緊急時における救命胴衣や酸素マスクの着用についての説明があります。小さなお子さんと一緒に飛行機に乗っているとします。緊急時に酸素マスクが頭上から垂れてきました。さて、皆さんであれば、その酸素マスクを最初に誰に付けるでしょうか。お子さんでしょうか、ご自身でしょうか。正解は、実はご自身が先なのです。自分がまず安全を確保しなければ、他者を助けることが出来なからです。これは飛行機での緊急時に限らず、震災や天災などにおける救援活動などにおいても同じことが言えるのです。つまり、他者を助けられる人、他者を愛することが出来る人というのは、まず自分自身を愛することが出来る人でなければならない、ということなのです。

正しい、豊かな、基本的愛情を受けて育った子どもは、自ずと愛するということがどういふことなのかを知っています。愛されるということ、心でも頭でも身体でも覚えていきます。幼児期の子どもに格別の愛情を注がなければならない理由はそのにあります。そして他者に対しても愛情豊かな人へと成長していくでしょう。

協力牧師 池田基宣

10月の行事予定

3日(土)	運動会
4日(日)	運動会予備日(雨天:種子高)
5日(月)	振替休日
7日(水)	いもほり
14日(水)	牛見学
28日(水)	すもう大会(年長・中)・弁当
29日(木)	すもう大会(2・3歳児)

11月の行事予定

4日(水)	実りの秋パーティー
5日(木)	給食試食会(すみれ)
7日(土)	役員会
9日(月)	" (たんぼぼ)
10日(火)	" (こすすす)
11日(水)	秋の一日遠足・弁当日
12日(木)	給食バイキング
16日(月)	10・11月誕生会
25日(水)	クリスマス会予行・弁当日



～すもう大会～



～秋の遠足～



～おいもほり～



～学校へいこう！小学校訪問～



働きがい改革 〓ほめること〓

さすがに、いつもより心配した台風十号もい意味で、事前の予想を裏切ってくれて、大きな被害も無く一安心でした。現在まで発生した台風は十三個ですから、例年より随分少ないようですが、十月の台風は例年大きいのがありまして、まだ油断大敵です。願わくは、運動会が好天の中で無事行われんことを祈ります。

さて、今の小学生が大人になって就く仕事の四割は、今の世に存在しない仕事だと言われます。つまり、今ある仕事の四割が無くなってしまうということ。このコロナ禍を経て、それは一気に加速するかも知れません。現に我々も、すべて出張は無くなくなり、園長会などの会議や保育者の研修から合同就職説明会まで、ほぼオンラインでの実施になっています。そして、それが実際に出来てしまふわけです。これらに費やす諸経費が軽減される反面、そこに関わる人々の仕事(経済の規模)も縮小していくことになり、今回のコロナ禍を通して、基盤としていたものが有事によって変われば、経済的な豊かさは簡単に崩れてしまうことに私たちが気が付かされました。これからは、あらゆる意味で人間力を活かして生きていく道が求められるのではないのでしょうか。簡単に折れないしなやかな心を持つた生き方。「働き方改革」より「働きがい改革」かも知れません。

最近「日本ほめる達人協会」という団体を知りました。決してお遊びでは無く、検定の昇級もある真面目な社団法人です。「ほめる達人」を世界中に生み出し、「人々に元気を与える」ことを目的とした活動をされているようです。理事長が言われるには、「ほめるとは、おだてることではなく、価値を発見して伝えること」「相手に意識を向けること」とのこと。暗闇に落ちているダイヤモンドは誰も気が付かませんが、そこに意識(光)を向ければ、その価値に気が付かされるわけです。ここで大事なのは、「ほめることを他人のコントロールには使わない」ということ。ほめて動かしてやろうという心は、すぐに相手に伝わるってしまふものです。自分の心に余裕のないときは、相手の良いところは見つけられません。人をほめることによって、自分自身の心が整いだし、周りに光を当てて輝かせるほどに、その中心にいる自分自身も、周りに光を浴び輝くことが出来るのだと思います。

前理事長の故池田公栄が天に召されて一年が経ちました。園庭にある『探求・感謝』の碑文を見る度に、幼児教育とそれに関わる者の姿勢を新たにしてくれます。日々の生活を守られ、生かされていることに感謝を忘れず、自分の好きなことに熱中し求め続けること。子どもたちと共にこの言葉を胸に刻み続けていきたいと思います。

子どもたちがもつとも活発な活動を展開する実りの時期です。ゆつくりと周囲の自然を観察しながら落ち着いた時間を満喫したいと思えます。羊掘り、遠足、すもう大会など屋外での活動を通して、いのちはずむ時となることでしょう。

園長

幸せなら手を叩こう

きむら りひと作詞 スペイン民謡

幸せなら手をたたこう	幸せなら 手をたたこう
幸せなら 態度で示そうよ	ほらみんなで手をたたこう
幸せなら 足ならそう	幸せなら 足ならそう
幸せなら 態度で示そうよ	ほら みんなで 足ならそう
幸せなら 肩たたこうを	幸せなら 肩たたこう
幸せなら 態度で示そうよ	ほら みんなで 肩たたこう
幸せなら ほったたこう	幸せなら ほったたこう
幸せなら 態度で示そうよ	ほらみんなでほったたこう
幸せなら ウィンクしよう	幸せなら ウィンクしよう
幸せなら 態度で示そうよ	ほらみんなでウィンクしよう
幸せなら 指ならそう	幸せなら 指ならそう
幸せなら 態度で示そうよ	ほら みんなで 指ならそう
幸せなら 泣きましよう	幸せなら 泣きましよう
幸せなら 態度で示そうよ	ほらみんなで 泣きましよう
幸せなら 笑いましよう	幸せなら 笑いましよう
幸せなら 態度で示そうよ	ほらみんなで 笑いましよう
幸せなら 手をつなごう	幸せなら 手をつなごう
幸せなら 態度で示そうよ	ほらみんなで 手をつなごう
幸せなら 飛び上ろう	幸せなら 飛び上ろう
幸せなら 態度で示そうよ	ほらみんなで 飛び上ろう
幸せなら 最初から	幸せなら 最初から
幸せなら 態度で示そうよ	ほら みんなで 最初から

毎年、運動会には年長児を中心にマーチングに挑戦しています。そして今年、音楽講師の池田が提案した曲目は、この「幸せなら手をたたこう」でした。

この曲は、日本では1964年に坂本九氏が歌ってヒットし童謡としても親しまれています。作詞は、早稲田大学人間科学部名誉教授の木村利人氏。元々は氏が学生時代にフィリピンでボランティア活動をしていた際に、旧約聖書の詩篇47篇を参考にして詞を付けたものが元になっているそうです。これが仲間内の愛唱歌として歌われていたのを偶然坂本氏が耳にし、いずみたく氏の元にうろ覚えのまま持ち込み、それを元にいずみ氏が採譜してレコード化、全国的にヒットすることとなったようです。1965年の春には、第37回選抜高校野球大会の開会式入場行進にも使用されました。2007年には、文化庁が発表した日本の歌百選にも選出されています。

童謡は幼児期の子どもたちの心を弾ませ、体の中に持っている気持ちを表現してくれる楽しいものです。子どもたちが日々の生活の中で、笑ったり、泣いたり、怒ったりする感情を素直に出すことは素晴らしいことです。それを周りの大人に受け入れられ、「まあいいか！」と折り合いを付けていける経験をさせてあげればと願っています。

運動会は是非、保護者の方々と一緒に手をたいたり、笑ったり、泣いたり、ウィンクしたり、飛び上がったりを楽しめれば幸いです。

副園長